

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、①実社会に必要な国語の知識・技能 ②論理的思考と豊かな想像力 ③言葉の価値への深い認識と、その言葉を通して他者と関わる積極的な態度 の三つを養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことができること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数		
前期	4月	【理解】「『未知』はいくらでもある」 筆者の捉え方を理解し、自分に照らして考えを深める。	定期考査①	11		
		【表現】話し方の工夫 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。				
	5月	【理解】言語としてのピクトグラム 言語の機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。				
		【表現】書き方の基礎レッスン 表記・表現の基本ルールを理解する。				
	6月	【理解】十六歳の時 筆者の旅を追体験することにより、様々な出会いがあることを知る。			定期考査②	11
		【表現】待遇表現 敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。				
7月	【表現】身近な製品の取扱説明書を作成する 情報をわかりやすく説明する方法を理解する。	定期考査③	13			
	【理解】「間」の感覚 文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。					
8月	【表現】実用的な手紙の書き方 実用的な手紙文として、依頼文と案内文の書き方を理解し、実践する。					
	【理解】「弱いロボット」の誕生 ロボットの開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。					
9月	【表現】論理的な表現 論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。					
	【理解】ナマケモノになる 文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、内容を解釈する方法を学ぶ。					
後期	10月	【表現】情報の探索と選択 情報の信頼性や妥当性の吟味の仕方を理解する。	定期考査④	15		
		【理解】言葉の海のオノマトペ 音声と意味の関係から、言語一般およびオノマトペの機能的特徴を理解し、音としての言葉への興味を広げる。				
	11月	【表現】地域の魅力を紹介する 情報を的確に紹介する方法を理解する。				
		【理解】臆病な詩人、街へ出る 他社とのかかわりを通して自身の人生や生き方を省みる筆者の姿に触れ、自分自身を見つめなおす契機とする。				
	12月	【表現】スピーチで自分を伝える 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるための方法を理解する。				
		【理解】イースター島になぜ森がないのか 筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。				
	1月	【表現】情報源の明示 引用の目的とその効用を理解する。			定期考査⑤	15
		【表現】自校の生徒の生活実態を調査する 相手と目的に応じた報告文のあり方を理解する。				
	2月	【理解】AIは哲学できるか 主張と根拠、推論など情報と情報との関係を理解する。				
		【表現】相手に伝わる案内をする 目的に沿って的確に案内する方法を理解する。				
3月						

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編 現代の国語 (第一学習社) 常用漢字オールクリア (尚文出版)
 学習課題集 新編 現代の国語 (第一学習社) 新訂国語図説六訂版 (京都書房)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	言語文化	単位数	1単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、①日本の言語文化に対する理解を深めること。②他者との関りの中で伝え合う力を高めること。③読書に親しむ中で自己を向上させ、言葉を通して他者と関わる態度を育てること。この三つの力を養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとまり発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取るうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4月	言語文化と古文 古文特有の表現を理解し、古語と現代語の関係を知る。	定期考査①	6
	5月	宇治拾遺物語 文章の内容をとらえ、古文の世界を楽しむ。		
	6月	羅生門① 作品の背景を知り、内容をとらえる。	定期考査②	6
	7月	羅生門② 解釈を深めた上で、文章を評価する。		
	8月	竹取物語 文章の内容をとらえ、文化的影響について理解する。		
9月	徒然草① 文章の構成・展開を理解する。	定期考査③		
後期	10月	言語文化と漢文 漢文特有の表現を理解し、漢語と現代語の関係を知る。	定期考査④	9
	11月	故事と成語 文章の内容をとらえ、菅文の世界を楽しむ。		
	12月	舟を編む 内容をとりえると共に、評書についての関心を深め、使えるようにする。	定期考査⑤	8
	1月	沖縄の手記から 読書の意義について考え、自分の考えを深める。		
	2月	徒然草② 作品世界について自分の考えをもつ。		
	3月	百人一首 時代や国によって考え方が変わることを理解する。		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

高等学校 言語文化 (数研出版)	常用漢字オールクリア (尚文出版)
高等学校 言語文化 準拠ノート (数研出版)	新訂国語図説六訂版 (京都書房)

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	国語総合②	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

明解国語総合 改訂版(三省堂) 常用漢字オールクリア(尚文出版)
別冊徹底トレーニングノート(尚文出版) 新訂国語図説三訂版(京都書房)

2 科目の目標

日本や中国の古典分野の様々な文章・表現に触れて心情を豊かにするとともに、自ら考える姿勢を育む。常用漢字を習得し、日常生活に必要な言語的知識を身につける。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	古文入門 宇治拾遺物語 「児のそら寝」 随筆	定期考査①	13
	5月	徒然草 「高名の木登り」 随筆		
	6月	枕草子 「五月ばかりなどに」 物語	定期考査②	15
	7月	伊勢物語 「芥川」 「筒井筒」		
	8月		定期考査③	15
9月	漢文入門 故事成語 「虎の威を借る」			
後 期	10月	漢詩 「静夜思」 「勸酒」 「涼州詞」	定期考査④	18
	11月	和歌 「万葉集」 「古今和歌集」 「新古今和歌集」		
	12月	軍記 平家物語 「木曾の最期」	定期考査⑤	17
	1月	史話 「『三国志』の人々」		
	2月	論語 「学問」 「生き方」		
	3月			

4 評価の方法

定期考査に、課題の取り組み・提出状況、出席率、漢字の小テスト等を加味した総合評価とする。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 授業に遅れたり休んだりしないこと。プリントやノートをきちんと整理すること。課題にしっかりと取り組むこと。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	国語表現	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

国語表現改訂版(大修館書店) パスポート国語必携国語常識の演習と確認改訂版(桐原書店) 国語表現基礎練習ノート(大修館)

2 科目の目標

演習を通して話す・聞く・読む・書くという表現力を身につけるとともに、自分の考えを伝える技能や態度を養う。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	1, 書いて伝える (副教材を適宜取り入れる)	定期考査①	13
	5月	整った文章を書くための基本的事柄の学習 ・漢字、仮名遣い、表記の仕方		
	6月	・係り受け ・文末表現の統一 ・書き言葉と話し言葉 ・適切な敬語 ・原稿用紙の使い方	定期考査②	15
	7月	わかりやすい文章を書くための学習 ・長すぎる文を単文に ・読点を効果的に使う ・曖昧な文を避ける ・接続詞の使い方 ・作文演習(1)	定期考査③	15
	8月			
9月				
後 期	10月	作文演習(2)	定期考査④	18
	11月	2, 小論文・レポート入門 ・小論文とは何か ・資料を読み取って書く ・論文をかくために ・小論文演習		
	12月	3, 会話・議論・発表 ・手紙、はがき、電話 ・相手や場面に応じた会話 ・プレゼンテーションの工夫	定期考査⑤	17
	1月			
	2月			
3月	4, まとめの学習 ・基礎力強化 同音異義語、慣用句、四字熟語 敬語の使い分け			

4 評価の方法

毎時間の授業の取り組み状況、出欠席、考査得点、提出物の内容等、総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ※
- ・実際に表現活動をしながら、必要な語彙や表現の仕方などの知識も定着させていく。
 - ・欠席をせず、前時の学習を次時につなげていく。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	古典A	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 教科書・副教材

古典A 物語選 (大修館書店)

2 科目の目標

古文、漢文、漢詩の読解力と鑑賞力を身につける。古文は説話や随筆、物語などのおもしろさを味わう。漢文は基礎的な訓読から鑑賞力を高める。
--

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	「今昔物語集」 安倍晴明	定期考査①	13
	5月	「宇治拾遺物語」 小野篁広才のこと		
	6月	「十訓抄」 大江山いくのの道	定期考査②	15
	7月	「枕草子」 中納言参りたまひて		
	8月	「方丈記」 行く川の流れ	定期考査③	15
9月	「徒然草」 家居のつきづきしく			
後 期	10月	「故事」 知音	定期考査④	18
	11月	画竜点睛		
	12月	「竹取物語」 かぐや姫の昇天	定期考査⑤	17
	1月	「伊勢物語」 初冠		
	2月	「大和物語」 をばすて		
3月	「源氏物語」 桐壺			

4 評価の方法

定期考査を中心に出席状況と授業への取り組みを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

ある程度の暗記を必要とするが、根気強く、繰り返し確認をしていくこと。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	漢字と文化	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

『プレゼミ総合国語』(浜島書店)

2 科目の目標

各テーマごとに分けられた文章を読みながら、言葉の知識を増やす。現代的な課題を述べた文章なので、一般常識や、作文、小論文を書く上でも役立てていく。
--

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	ガイダンス 学習の進め方・単位修得について	定期考査①	13	
	5月	基本編 第1回～第3回 辞書の使い方をはじめとして、自ら学ぶ姿勢を作る。漢検4級～5級の漢字を習得する			
	6月	基本編 第4回～第8回 各テーマに着目しながら、漢検4級～5級の範囲の漢字を習得する	定期考査②	15	
	7月				
	8月	必修編 第1回～4回 慣用句・ことわざの理解を深めながら、漢検3級～4級の範囲の漢字を習得する	定期考査③	15	
	9月				
後 期	10月	必修編 第5回～8回 文学史について有名な作品等の理解を深めながら、漢検3級～4級の漢字を習得する	定期考査④	18	
	11月				
	12月	完成編 第1回～第8回 故事成語の成り立ちや意味の理解を深めながら、漢検2級～3級の範囲の漢字を習得する	定期考査⑤	17	
	1月				
	2月				四字熟語の成り立ちや意の理解を深めながら、漢検2級～3級の漢字を習得する
	3月				対策編 書き誤りやすい漢字の集中練習

4 評価の方法

定期テストのみならず、課題の提出状況や出席率等を加味した総合評価とする。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 授業に遅れたり、休んだりしないこと。この学習で基礎を固め、漢字検定(年に3回、上級合格は増加単位申請可)に挑戦するという目標を持って勉強に励むのもよいでしょう。
--

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	論述の基礎	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

『コラムと論説』演習ノート第5集(京都書房)

2 科目の目標

新聞のコラムや社説を主な教材として扱いながら、文章の構成を把握することによって要約の技術を高め、論の要旨を読み取る力をつけることを目指す。加えて、他者の考えを理解するとともに、それに対する自らの意見を持つことの大切さに気付かせ、筆記・口述ともに論述ができるようにする。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)			
前 期	4月	ガイダンス	学習の進め方・単位修得について	定期考査①	13		
		言語事項の復習	漢字検定3級以上の範囲の復習 評論的文章に頻出する語句や表現の理解				
	5月	評論的文章に慣れる	評論的文章の読み方の復習と読解練習 評論的文章に必要な文章構成の理解				
	6月	コラムの読解①	新聞コラムの読解・要約(副教材中心)			定期考査②	15
	7月	コラムの読解②	新聞コラムの読解・要約(新聞各紙中心)			定期考査③	15
		コラムの読解③ と意見文 (夏季休業中)	新聞コラムの読解・要約と意見文(夏季休業中の宿題として新聞各紙)				
8月	社説の読解①	新聞社説の読解・要約(副教材中心)					
9月	社説の読解②	新聞社説の読解・要約(新聞各紙中心)					
	10月	報道番組の視聴と理解①	特定の社会問題についてのニュース番組を視聴後、新聞報道と比較し、内容をまとめて記述する	定期考査④	18		
後 期	11月	報道番組の視聴と理解②	比較的難しめの特集番組を視聴し、理解のための背景を調べながら、内容をまとめて記述する	定期考査⑤	17		
	12月	テーマ毎の論述①	設定されたテーマの中から選択し、取材・資料収集・構成など、論述の準備をする				
		テーマ毎の論述② (年末年始休業中)	休業を利用して、論述の準備をする				
	1月	テーマ毎の論述③	論理性や効果的な表現等に注意しながら、何度か書き直した上で、清書する				
	2月	テーマ毎の論述④	互いの論述を批評し合う				
	3月	テーマ毎の口述	論述をもとに意見発表を行い、批評し合う				

4 評価の方法

課題の提出状況や出席率等を加味した総合評価とする。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ※
- ・新聞を読んだり、ニュース番組を見たりする習慣をつけ、時事問題に関心を持つようにする。
 - ・授業に遅れたり、休んだりしないこと。
 - ・配布プリントなどは最後まで捨てずにきちんと整理しておくこと。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代文A	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

現代文A（東京書籍） ・ 現代文A学習課題ノート（東京書籍）

2 科目の目標

国語総合における学習を土台に、作品を味わいながら読解力、表現力などを育み、社会生活・人間関係・生涯学習を支える言語的・思想的基礎力を養う。

3 学習の計画

			学 習 の 内 容	考査範囲	時数 (予定)
前 期	4月	随想・評論編	『さくらさくら』 作品に込められた作者の思いにアプローチする。	定期考査①	13
	5月	随想・評論編	『ミロのヴィーナス』 ・筆者の表現を理解し、主張をつかむ。		
	6月	小説編	『ナイン』 ・登場人物の心情を追いながら、感情表現や文章表現を学ぶ。	定期考査②	15
	7月			定期考査③	15
	8月	言語活動編	『朗読して味わう』 ・独特の発想や感性に触れる。		
9月	随想・評論編	『少女たちの「ひろしま」』 戦争の悲劇に思いを巡らせ、時代や社会について考える。			
後 期	10月	小説編	『山月記』 ・主人公の性格、心情を読み取りながら主題を考える。	定期考査④	18
	11月	随想・評論編	『分からないからおもしろい』 ・筆者の仕事に対する姿勢を理解し、仕事の持つ奥深さについて考える。		
	12月			定期考査⑤	17
	1月	小説編	『こころ』 ・場面の展開を丁寧に押さえながら登場人物の行動、心情をとらえる。また、作者について理解を深める。		
	2月				
3月					

4 評価の方法

定期考査を中心に出席状況と授業への取り組みを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

教科書準拠課題ノートも利用して内容を理解する。 語彙力を高めるために辞書の使用を習慣化する。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	古典基礎 公開講座募集予定	単位数	2単位
-----	---------------	-----	-----

1 教科書・副教材

『よくわかる新選古典文法』(東京書籍) 古語辞典 国語便覧 百人一首参考書 配付プリント
--

2 科目の目標

古典の基礎を復習しつつ、代表的文学作品に触れながら、上代から中古にかけての文学史を概観する。その際、百人一首をもう一つの軸に据えて親しむ。 (なお、公開講座として社会人聴講生を受け入れる予定である。)

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	古典基礎事項復習	定期考査①	13
	5月	上代の文学 ・古事記 ・日本書紀 ・万葉集		
	6月	(百人一首の基礎事項と文学史・文語文法への応用)	定期考査②	15
	7月	中古の文学(1) 物語		
	8月	・竹取物語 ・伊勢物語 ・大和物語 ・源氏物語	定期考査③	15
9月	・宇津保物語ほか			
後 期	10月	中古の文学(2) 日記 ・土佐日記 ・更級日記	定期考査④	18
	11月	・蜻蛉日記 ・紫式部日記ほか		
	12月	中古の文学(3) 歴史物語 ・大鏡 ・栄華物語	定期考査⑤	17
	1月	説話 ・今昔物語集ほか		
	2月	中古の文学(4) 随筆 ・枕草子		
3月	中世の文学 ・徒然草 ・方丈記			

4 評価の方法

定期考査の得点に偏らず、課題の提出状況や出席率等を総合的に評価し、合格基準を設定する。基準をクリアできない場合は履修のみ認定となる場合もある。遅刻や欠課による学習の遅れは自己責任であり、評価に直結するので注意。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 本来は国語総合の古典分野を履修済みであることが望ましいが、古典の基礎(復習)から進めるので諦めずに取り組むこと。活用等の丸暗記を求めない分、辞書や資料ほかを適切に利用して自ら調べたり、積極的に課題提出をするなど、古典作品に触れる意欲を持とう。定期考査での成績が思わしくない場合は課題提出で補う等、学習の成果を形に残す努力をしよう。「規定内なら欠席してもいいだろう」とか、逆に「出席さえしていれば何とかなるだろう」といった姿勢でいると、評価が得られず、単位修得に苦労することになるので、自覚ある取組を。
--

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	わかる国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書…不使用 ・ 教科担当者の配布するプリント

2 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学までに学習した語彙の復習を中心に、日常生活の中で、それらを使い、書く・話すという作業に、スムーズに使えることができる力を養うことを目指す。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	文の構造	単語・文節・自立語・付属語・主語と述語	定期考査①	13
	5月				
	6月	修飾と被修飾	修飾語・副詞の呼応・言葉のつながり	定期考査②	15
	7月				
8月	文と文の関係	接続語・指示語	定期考査③	15	
9月					
後期	10月	論理的関係	イコールの関係・対立関係・因果関係	定期考査④	18
	11月				
	12月	論理的な読解	文章の論理構造・要約	定期考査⑤	17
	1月				
	2月				
3月	心情問題	心情把握・詩の読解			

4 評価の方法

学習への取り組み……………授業参加の姿勢(欠席・遅刻・早退のない真剣な取り組み)
--

5 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は講義、プリント学習が中心であるので、授業をしっかりと聞き、実際に手を動かして問題を紙の上に解いてみる。 ・ 基本的には小中学校の内容なので、人に聞くことをためらわず問題を理解して解き進める。
